

緑ネット通信 No.93

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆
年 会 費：1000 円
口座番号：00170-9-696174
連 絡 先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

幸谷小学校 放課後児童クラブで 竹工作

できたよ、ボクの竹ぽっくり！



放課後児童クラブのホールに、ノコギリを引く音が響きます。「おへそに向かって真っすぐ引いてね」「ノコギリの背中が真っすぐな線に見えるように引くといいよ」などと盛んに声をかけるのは、子どもたちをサポートする里やま応援団の面々。でも、子どもたちの声はあまり聞こえてきません。「ノコギリを使うのは初めて」という子も多かったので、少し緊張していたか、慎重になっていたのかもしれません。

竹を切り落とした3年生のひとり。「今ので何かわかった？」と尋ねると「うまく引くと力がいらぬ」との答え。そうそう、その調子、よくできました！

幸谷小学校放課後児童クラブの子どもたちが、竹ぽっくりづくりを体験したのは、夏休みも後半の8月21日(金)。参加児童は1年生から6年生までの男女合

計138人。材料の竹20本は、前日に旧齋藤邸の竹林整備で伐採したもの。作業には応援団有志12人、工作体験には18人が参加しました。

竹ぽっくりは、竹の節のすぐ上と節下8センチ程度の2カ所で切り、これを2つつくってから、それぞれの節下に電動ドリルで穴を開け、紐を通して引き手ができれば完成です。ノコギリを使ったことがある子もいましたが、電動ドリルを使うのはほとんどの子が初めて。竹に穴が開いた瞬間に、緊張が解けて笑顔がもれます。引き手の紐を結ぶのは、1、2年生にはまだ少し難しいようでした。

一方、応援団のメンバーは、学年の入れ替わりで時間が空くと遊びはじめます。竹筒を笛にして鳴らす人、竹リングをつないでチェーンにしたり、木琴ならぬ竹琴づ

くりにチャレンジしたり……。本当にじっとしているのが嫌いなおじさん、おばさんたち。いえいえ、そこが良いところです。

おもしろかったのは、工作が終わった後です。残った竹の端材を欲しい人に持ち帰ってもらうようにしました。

あまった竹でボシエット作ったよ！



すると、大勢の児童が押しかけて竹を物色。中にはそうめん流しに使う竹樋をつくってほしいというオーダーも。もちろん心優しい応援団メンバーはこれに応えます。

ところで、この児童館での竹工作イベントはどのような経緯で始まったのでしょうか？それは市長の諮問機関である緑推進委員会に由来する「みどりの行動会議」の発案で、七夕飾りに使う竹を児童館や放課後児童クラブに配布したのがきっかけです。それまで七夕用の竹を購入していた施設もあり、これがたいへんに喜ばれました。それが 2012 年のことです。

その後の 2015 年に、幸谷小の放課後児童クラブから竹工作をしたいとの声が届き、実施された体験イベントが継続されてきたのです。

聞こえてきた声……同放課後児童クラブの担当者からは「うちの子が自分でノコギリをひいたのですか？」とか、「こんな貴重な体験ができるとは」という保護者の驚きや喜びの声を聞きました。また、大学生になった幸谷小の卒業生が「児童クラブの竹工作の記憶が強く残っている」と話していたエピソードなどもうかがいました。うれしい話です。



前日の竹の伐り出し、当日朝の準備とも応援団スタッフは手際よい

担当リーダーの小川忍さんが大切にしているのは……

①道具を使ってもものを作る楽しさと完成したもので遊ぶ楽しみを知る。②どうしたら竹を真っ直ぐに切れるのか、穴が斜めに空かないようにするにはどうしたら良いかなどを、五感も手も使って考えることで手や体の使い方を覚え、集中力も高まる。③集中力を欠くと、刃物や道具の扱いがおろそかになり、ケガのおそれがあるので注意を心がける。④そして丁寧に作業する粘り強さも体験してもらう。この 4 点に重きを置いて指導に当たっていると話してくれました。

(※この日使った竹は旧齋藤邸裏庭の竹林整備で出たものです。この竹林整備は松戸市教育委員会文化財保存活用課、松戸里やま応援団の協働により行われています。)

スタッフ初参加の櫛田さんからもレポートを頂きました

後半で私が担当した 4 年男子は今年から学童に入ったとのことで、「初めて作るからうまくいくかなあ」と言いつつ「ノコギリをおへそに向かって、引く時だけ力を入れる」と伝えるとすぐにコツを掴んで、あっという間に出来ました。「道具と身体の使い方上手い！」と言うと「次はもっと難しいのもできるかも」と得意顔！

5 年男子は体格の良い子だったので、敢えてとっても太くて硬い竹が残っていたのを指差して「これやる？」と聞くと、ニヤリ。「俺、もう 3 回はやってるから、できるね」と。そして手こずったもののしっかりと完成。その竹の重量感、竹同士を打ち鳴らす重い音、ほかのものとは違うしっかりとした出来に満足そうでした。

最後は 5 年女子、乗るのがとっても得意とのこと。「みんなより高いの作りたい！」ということだったので、高めの 10 センチで作りました。「これでグラウンド 10 週走る」と楽しそうでした。

あらためて、この活動は成長期の子どもたちにこそ必要な、よい体験だなと思いました。(藤田・高橋)



初めてのノコギリ、がんばれ！

ドンちゃん・グリちゃんの自然展

12年続いている 水鉄砲を作って遊ぼう は大人気！

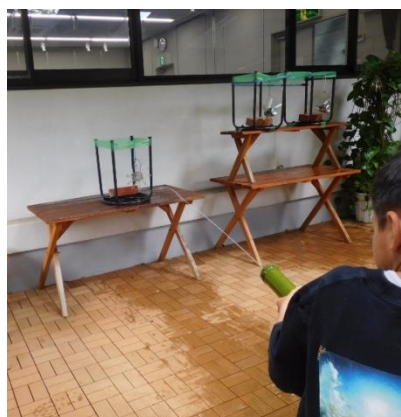
21 世紀の森と広場で活動している里やま応援団「里やま Q」の皆さんが、公園管理事務所と協働で行ってきた夏休み企画で 12 年も続いています。
公園の竹を使った昔ながらの手作り水鉄砲は今も子どもたちに大人気！「里やま Q」の皆さんにお聞きしたことや活動報告を元にご紹介いたします。

はじめは？

- ・この企画は、夏休み、来園者に水鉄砲やバッタ作りなど楽しんで頂く催しでした。11 月の「里やま Q と作るクリスマスリース」と共に 21 世紀の森と広場での恒例イベントで、公園管理事務所との協働のもと役割分担を決めて開催を継続しております。
- ・作り手も手探りで子供時代の記憶を元に布を何重にも巻き素朴な水鉄砲でした。事前受付に移行する前は、橋の下での開催で申込者が列をなす人気企画でした。公園の職員の方もブースに入って頂きまさに協働の企画でした。
- ・現在の形式になるまでには、何段階もステップを踏み最良の水鉄砲作りになりました。またこの企画は（11 月のリース作りも）熱心な職員さんがいらっしゃり協働で続けて来られたと思います。

会員の皆さんの意欲の継続で気をつけていることは？

- ・とにかく主役である子ども達に安全に楽しんでもらうことを第一に考え、結果的にそれが保護者の方との大切な思い出になってくれればと願い続けております。子ども達の喜ぶ顔をみることで、帰りに「楽しかった！」の一言を頂くことで、それが我々の最大のモチベーションとなります。



2014 年の様子



水鉄砲ができあがって水が的に当たる爽快感を共有し、楽しさを分かち合うことがこの行事の神髄のように感じました。そのほかにお考えがあれば教えてください。

- ・自然展のワークショップで行うことを考え、材料とする竹の特徴や特質、普段馴染みのないノコギリなどの使い方、どうすれば水鉄砲が上手く出来るかを、体験し遊び感覚で学んでもらうということも意識しております。

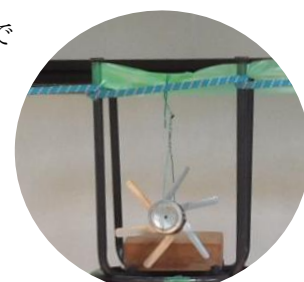
今年の段取りや様子は？

- ・7/16 には押し棒用の細竹 8 本、外筒用の太竹 3 本をカフェ裏より切り出し、7/25 に最終準備・製作練習をし、8/6 の本番を迎えました。
- ・できるだけ多くの子どもたちに体験してもらえようと、11 名のボランティアスタッフと管理事務所 3 名で一日に 3 回、計 14 組 35 名うち作成 20 名でした。
- ・松戸市オンライン申請システムにより事前受付・抽選でしたので、適切な人数でクーラーの効いた室内で落ち着いて実施できていました。

最後に里やま Q の宣伝を！

- ・当会の活動は、①縄文の森の整備・保全、②里やまハウス前の畑における草花の栽培、③年間イベントの開催の三本柱になります。全てに共通することは、来園者に楽しんでもらうことを目的にしております。公園での活動は食堂・売店・水道・トイレなどの設備が完備されており安全・安心に活動ができます。

動は食堂・売店・水道・トイレなどの設備が完備されており安全・安心に活動ができます。



ワクワクするね！ 命中するとクルクル回る手作りのマト

夏の活動あれこれ…活動報告などから…

6/12 園児 42 名がジャガイモ収穫と

森あそび:石みやの森

6/26 セタ用マダケの切出し 35 本:野

うさぎの森、応援
団有志

7/13 ヤマユリ鑑賞

会:芋の作の森

7/24 虫とあそぼう

8 家族 22 名:溜ノ上の森

8/1 Let's体験で 16 名が森
の自然観察、竹の伐採体
験と竹食器づくりまたは草
木染体験、流しソーメンを
体験:三吉の森

8/2 Let's体験で中高生

11 名が竹林整備を体験関
さんの森

8/6 水鉄砲を作って遊ぼう

8/19 水 河原塚南山自治会

夏休み子ども教室(子ども

21 名、大人 16 名)森の役割

の話を聞いた後、子どもたちは
スラックラインなどを楽しんだ。

:野うさぎの森

8/21 幸谷小放課後児童クラブ

8/23 Let's 体験で中学生 3

名。松戸の森林率の低さ

を聞いて驚いていた。:野

うさぎの森

8/26 Let's 体験の 1 名とサ

ッカー部の生徒 7 名、教師 3 名が里

山ボランティア体験:野うさぎの森

そのほか、^{のみ} 鑿研ぎ練習会、竹ひご練習会、
スローライン練習会、ツリークライミング
練習、フォレストハウス始動、なども



～しぜんのコラム 64～

アカハネナガウンカ

昆虫写真を撮る人たちの間で、絶大な人気を誇るアカハネナガウンカ。体長わずか 4mm の小さな虫で、ススキなどの葉裏でひっそりと吸汁している。

人気の理由は、オレンジ色の小さなからだに長い前翅。危険を察知すると、飛ぶこともあるが、大抵はゆっくりと歩いて隠れるところもかわいい。そして、正面顔は寄り目のユーモラスな顔つきで、どの方向からでも目が合うことが、最大の魅力である。

ただし、寄り目に見える白い複眼の中の黒点は、“擬瞳孔”と呼ばれるもので真の瞳孔ではない。複眼の構造上、観察者の正面に位置する数個の個眼だけが黒く見えるだけのこと。カマキリの複眼にも黒い点があり、どの方向からでも目が合うように見えるが、これも“擬瞳孔”で、同じ理屈である。



アカハネナガウンカ 2026.7.28 21 世紀の森と広場(みどりの里)

このアカハネナガウンカ、10 年以上前から柏市内の里山で観察していたが、昨年からはススキ群落の管理手法が変わって激減し、残念に思っていた。

ところが、今年 7 月 27 日に 21 世紀の森と広場のススキ群落で、20 頭以上の生息を確認した。この場所は、行けば必ず通るところで、これ以降は通れば必ず探し、見つければ必ず撮るということが 8 月 24 日まで続いた。その後は確認されていないが、来年も会いたいものである。

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー（観察学習会）No.72

水とみどりのふれあい松戸川を歩く

首都圏の水源である江戸川を安全な水質にするため設けられたバイパス水路のふれあい松戸川は、建設から 30 年が経過し、豊かな生態系が形成されています。江戸川・ふれあい松戸川を訪ね、みどりについて考えます。

10 月 25 日(日) 9:30~12:00 (小雨実施)

集合: 松戸駅西口デッキ

持ち物: 飲み物、雨具

参加費: 300 円(小学生以下無料)

申込み・問合せ: 090-4078-3703 (藤田 18 時以降) その他 歩きやすい服装でどうぞ

※参加は申込制・先着 30 名 (10 月 1 日より受付)